

平成28年度愛知県がんセンター公開講座(第5回)のご案内

「大腸がんの治療の進歩」

= 平成28年11月19日(土)開催 =

〈 講師からのメッセージ 〉

「内視鏡による治療の進歩」

大腸がんは、2015年のがん死亡数によると男女ともに上位3位にはいる身近ながんですが、一方で初期に発見すれば根治できるがんでもあります。内視鏡による治療は近年めざましく進歩し、以前は手術を行わなければならなかった病変が低侵襲な内視鏡で治療できるものも増えてきました。本講座では、自覚症状からみた大腸がんの特徴、できるだけ初期の段階で発見するために必要な検査、そして近年行われている内視鏡治療について解説したいと思います。

内視鏡部 医長 田中 努

「大腸がん抗がん剤治療の進歩」

進行した大腸がんでは、内視鏡治療や手術以外に抗がん剤治療が適応となる場合があります。効果の期待できる新しい抗がん剤が登場し、副作用への対応も進歩し、従来よりもメリットデメリットのバランスが改善してきています。しかし、最も大切な点は、何を目標に抗がん剤治療を行うか、という点です。本講座では、大腸がんに対する抗がん剤治療の進歩についてお話するとともに、運動、食事など抗がん剤治療を継続する上での留意点も交えてお話させていただきます。

薬物療法部 医長 谷口 浩也

「無再発を目指した大腸がん手術」

大腸癌治療で一番大切なことは、いかに「根治性の高い手術(再発しない手術)」をするかです。しかし、近年、腹腔鏡手術やロボット手術などの普及に伴い、短期成績(傷が小さいことや術後の痛み)ばかりが目され、長期成績(予後:いかに再発せず、長く生きられるか)が軽視されがちであります。手術は何度でも繰り返してできるものではありません。語弊があるかもしれませんが、「一発勝負」であり、初回手術が、極めて大事であります。今回はこの「根治性の高い手術」すなわち「十分な腸管切除」、「徹底したリンパ節郭清」、「周囲組織との適切な剥離面の確保」についてお話しさせていただきます。

消化器外科部 医長 小森 康司